

# 尊光寺報

第119号

徳島県阿波市市場  
町大野島字天神41  
尊光寺

## 正信偈講座⑭

(赤い経本七巻)

### 本願名号正定業 至心信楽願為因

#### 阿弥陀さまの願い(本願)

前回までに阿弥陀さまの十二の光のお話が終わりました。今回は、その阿弥陀さまが名号(みょうごう・お名前)として働いているという部分です。

まず「本願」とは、「もともとの願い」という意味と「根本の願い」という二つの意味があります。その説明から始めましょう。「もともとの願い」とは、仏さまがもともと菩薩として修行される時に立てた願いです。菩薩さまが、私はこのような仏になりますと、誓いを立てて修行され、それが成就しなければ仏になりませんというもので、誓願とも言います。

この誓願には、すべての菩薩さまが共通して願われる総願と、それぞれの菩薩さま独自の別願というものがあります。総願は四弘誓願(しぐせいがん)といい、①衆生無辺誓願度(生きとし生けるものは数限りがないけれど、一切を学びましょう)②無上誓願成(求めるべき仏の境地ははるかに遠いが、かならず成し遂げよう)の四つです。そもそも菩薩とは、仏になりたいと願う者のことです。ですから、われわれ念仏者もこのような願いを持つて仏道修行に励むべきでありましょう。注目すべきは四弘誓願の最初に「衆生無辺誓願度」と利他の精神が誓われていることでしょうか。それは、「自分だけの幸せを願うのではない、あらゆる人々とともに幸せであるべきである。悩み苦しむ方がいるかぎり私は仏にはならない」という仏教の慈悲の心を表明したものでありましょう。例えば、なじみ深い観音菩薩という方がいらつしやいます。観音さまはなぜ菩薩の位にとどまらずにそのままのままで修行がまだ足りないから仏に成れないのでしょうか。どうやら、そうではないようです。この「衆生無辺誓願度」という誓いを大切になさるあまり、我々のような煩惱に苦悩している者が次から次から現れ、そのような者がいるのにもかかわらず、先に仏にはとても成れないと、菩薩の位にとどまっていらつしやるようです。

に成られたのでしょうか。そのように考えるのは穿った見方です。仏に成ると言うことは、自覚覚他(自らさとり、他をさとらせる)のはたらかきの窮まった方を指して言います。つまり、菩薩の時にはできなかったことをより完璧に成し遂げられる存在が仏という境地なのです。菩薩の段階では救いきれなかった凡夫を完全に漏らすことなく救うことのできる存在が仏なのです。仏教は仏に成つてそれで終わりではありません。迷い苦しむ者(この世に残された私たち)を救い続ける存在にならなければならないことが、仏に成ると言うことなのです。

俗な譬えをすれば、温泉に入つて、極楽ゴクラクと思わず口からホツとした喜びの音が出る方は多いでしょう。しかし、ひとり温泉を楽しむだけでは真の極楽とは言えないのです。自ら温泉の喜びを知つたならば、他の方に温泉への行き方を、入り方を伝える、それが真の極楽温泉の楽しみ方といえましょう。仏の境地とは独り楽しむものではないのです。



続いて、別願の説明です。それぞれの菩薩さまが、このような仏に成りたいと起こされる願いですから、仏さまの個性と言つてもいいでしょう。阿弥陀如来の四十八願、薬師如来の十二願、釈迦如来の五百願などがあります。その願いとは、どのような仏に成るのか、どのような浄土を建立するのか、どのように人々を救うのか、それぞれの仏さまによつて異なります。親鸞聖人は、様々な仏さまが願いを起し我々を救おうとしてくださっているにもかかわらず、それらの仏さまの願いは自分には難しくかなうことができなかったと、懺悔をもつて我が身を振り返られ、「如来の願船いままさずは、苦海をいかでかわたるべき」と、阿弥陀如来の願いこそ私がさとりに渡ることでできる唯一の道であると喜びを記されています。

さて、その親鸞聖人の喜ばれた阿弥陀如来の願いが、根本の願いという意味での本願です。阿弥陀如来の四十八願の中でも第十八番目の願を根本の願として見ていかれたのです。その第十八願とは、現代語訳を示しますと、

わたしが仏になるとき、すべての人々が心から信じて、私の国に生まれたいと願い、わずか十回でも念仏して、もし生まれることができないうなら、わたしは決してさとりに

## 法要・行事のご案内

### ◎ 御正忌報恩講法要

【12月22日】午後1時 日中法要

午後6時 大連夜法要・御伝鈔拝読

【12月23日】午前10時 総永代経法要 お昼御齋(食事)

昼12時半 報恩講御満座・御伝鈔拝読

午後3時 落語 桂優々さん

〔法話 本願寺派布教使 藤井義英 師〕

宗祖親鸞聖人の遺徳を偲び、念仏に出逢えたことを悦ばせて頂く、一年で一番大切な法要です。お誘い合わせの上、参拝下さい。なお23日は参拝の皆様は御齋(昼食)を準備しております。

※本年度の執行当番は土成西組(郡)・出口・秋月・水田・成当(畷城地)です。よろしくお願い致します。

### 尊光寺 宗祖親鸞聖人 御正忌報恩講法要

浄土真宗門徒として、おのれの手を合わせ、仏さまの話を心に響かせましょう。



法要 日程	
◆12月22日(金)◆	昼1時 報恩講法要 法話
	夕5時 お齋(食事)
	夜6時 大連夜法要 御伝鈔拝読 法話
◆12月23日(土祝)◆	朝10時 門徒総永代経ならびに戦没者追悼法要 法話
	随時 お齋(食事)
	昼12時半 報恩講ご満座法要
	御伝鈔拝読解説 法話
	昼3時頃 余興 落語 桂優々さん
	(本年の法話講師 本願寺派布教使 藤井義英 師)

### ◎ 除夜の鐘

【12月31日】午後11時40分頃より

鐘の音とお念仏で来る年を迎えましょう。

どなた様も鐘をつくことができます。

### ◎ 本山・大谷本願寺参拝団(団参)の募集

□日帰り 【6月17日(日)】 経費1万5千円

□一泊二日 【6月17日(日)・18日(月)】 3万5千円

大谷本願寺納骨・本山西本願寺参拝の後、京都観光予定、一泊は有馬温泉宿泊、天橋立観光予定

※詳細は3月の寺報にて、どうぞお楽しみに。



## アキヤマセイコ先生の 藍染体験教室

お寺の藍染機を手掛けてくださったアキヤマセイコ先生から藍染を習います。  
ご興味のある方はどなたさまもご参加ください★

11月12日、尊光寺において、書院の藍染襦を手掛けた秋山精子さんらによって、藍染体験教室が開かれた。藍染教室には尊光寺門徒ら、1歳から80歳を超える方で幅広い皆様に参加いただいた。初めに秋山

を開きません。ただし、五逆の罪を犯したり、仏の教えを誇るものだけは除かれます。

というものです。ここには修行しなさいとは説かれていません。私たちが信心と念仏によつて浄土に生まれることができず、一向に仏道が進まない、そのような私たちを信心一つ、念仏一つで救おうとされたこの願いこそ、阿弥陀如来の根本の願いであると喜んでいかれたのです。

前号よりお知らせをしております。尊光寺の集合納骨墓ですが、現在、庭の工事を継続中のため、納骨が可能になるのは春頃の予定です。今しばらくお待ちください。集合納骨墓

平成29年 尊光寺報恩講法要記念

## お寺で落語 おてらぐど



桂 優々

平成29年  
12月23日(土・祝)  
15:00頃開演 入場無料  
(12:30より法要 法話に引き続き 落語を開演いたします。)

桂 優々 (かつら ゆうゆう) 昭和61年生まれ、滋賀県高島市出身 米朝事務所所属  
【コメント】  
それが趣味で、仕事でも、一生懸命全力でやらせていただきます。いつも元気で明るい高座をモットーに会を盛り上げるように気をつけて一生懸命頑張っております。来ていただいたお客様と楽しい空間を作り、また来たいたいと思っ「頂けるようなお家になれるように日々精進しております。まだまだ若手ですが、まだまだたくさんありますし、これから出てくるかも知れませんが、落語を中心に好奇心旺盛にどんどん取り組んでいきたいと思っております。人が大好きなので、これから色々な出会いを大切にしながら桂優々と「縁」を結んでみませんか？

**会場: 尊光寺** 阿波市市場町大野島字天神41  
0883-36-3026

先生から藍染の簡単な説明があり、大人は絞り染めに、小さな子ども達は手形の染め抜きや染料クレヨンでお絵かきをしたり、個性豊かな作品を各々が仕上げ、持ち帰った。昼食を取りながらの秋山先生との懇談では参加者の方々から、素人個人でも藍染のものを作るのは可能でしょうか等と、藍染に関する質問が多く寄せられ、先生には丁寧にお答えをいただいた。

本年の報恩講法要の余興(12月23日)は、落語家、桂優々さん。優々さんは、滋賀県出身、米朝事務所所属の若手落語家、師匠は桂雀々師。尊光寺では2014年に落語講演を行っており、二回目。報恩講の余興としてどうぞお楽しみください。

報恩講にお参りください。お寺で落語

尊光寺の一年で一番大切な法要が報恩講法要(12月22日、23日)です。どなたさまも、念仏に出会えたそのご縁を聞かせていただきましょう。参拝の皆様には新しい書院でお齋(精進料理)をお接待いたします。



### 平成30年 年忌表

1周忌	平成29年
3回忌	平成28年
7回忌	平成24年
13回忌	平成18年
17回忌	平成14年
25回忌	平成 6年
33回忌	昭和61年
50回忌	昭和44年
61回忌	昭和33年
100回忌	大正 8年
150回忌	明治 2年
200回忌	文政 2年
250回忌	明和 6年
300回忌	享保 4年

● 仏教講座「御文章」を読む 月1回 金曜午前10時、11月12日、2月9日、3月9日

● 仏教講座「御文章」を読む 月1回 月曜午後1時半、1月8日、2月12日、3月12日

「善人なをもて往生をとぐ、いはんや悪人をや」で知られる『歎異抄』を読みながら親鸞聖人の教えを味わいます。

● 仏教講座「御文章」を読む 月1回 金曜午前10時、11月12日、2月9日、3月9日


「朝には紅顔ありて夕には白骨となるる…」本願寺八代蓮如上人が残した『御文章』を読みながら、仏教に触れてみませんか。

● 副任職担当

ニホ文化センター  
徳島教室のご案内

各講座、受講生募集中  
3回3ヶ月で739円

問い合わせは、  
徳島駅前ニホ文化センター  
(電話 083-611-6881)



所在地/770-0832 徳島市寺島本町東3-13-1  
徳島駅前 濱口ビル8F

五ヶ寺連研をのぞいてみませんか。

鴨島町・石井町の浄土真宗本願寺派の寺院五ヶ寺が連続して講座を開いています。仏事作法や仏教の話の話を気軽に聞いてみませんか。副任職も講師の一人として共に学んでいます。

興味ある方はどうぞ気軽に副任職へ連絡下さい

7月6日、19時 法座お説教(鴨島 徳住寺)

9月16日、19時半 親鸞聖人の生涯(石井 西芳寺)

11月11日、19時半 お釈迦様について(石井 光明寺)

1月20日、18時半、仏教讃歌(鴨島 西円寺)

3月10日、18時半、正信偈の解説(鴨島 徳住寺)

は、遺骨一体の全納、一部分の分骨、ご先祖の遺骨の納骨などが可能です。

また、本堂裏にはロッカー式の納骨堂もあります。ロッカーがほぼ満室になっておりますので、年末に増設予定です。